

# 福島第一原子力発電所の敷地境界外に影響を 与えるリスク総点検に関わる対応状況

2016年2月22日

東京電力株式会社



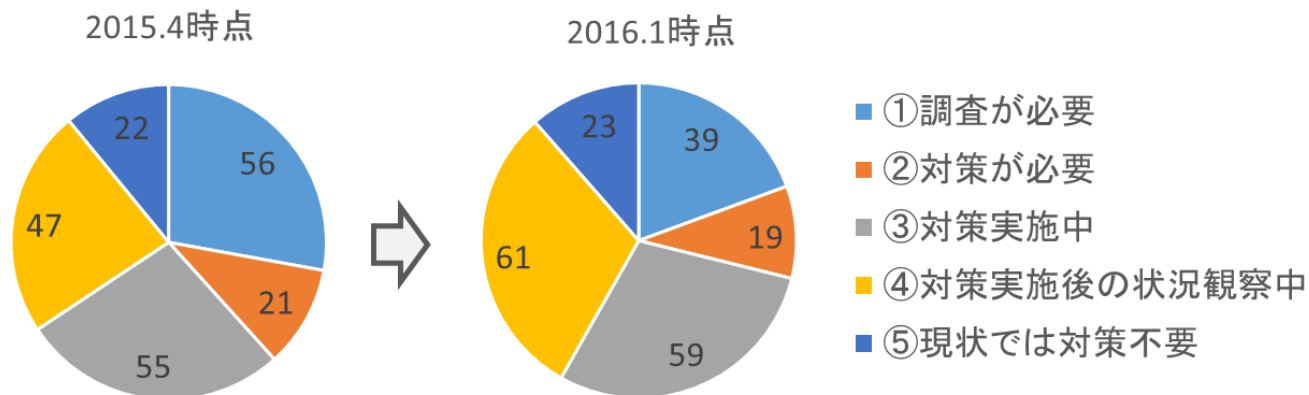
東京電力

---

# 今年度の進捗状況

リスク総点検において、190項目（液体漏出：159項目、ダスト発生：31項目）について抽出し、体系的に整理した（2015年4月28日公表）。

## 【今年度の進捗状況】

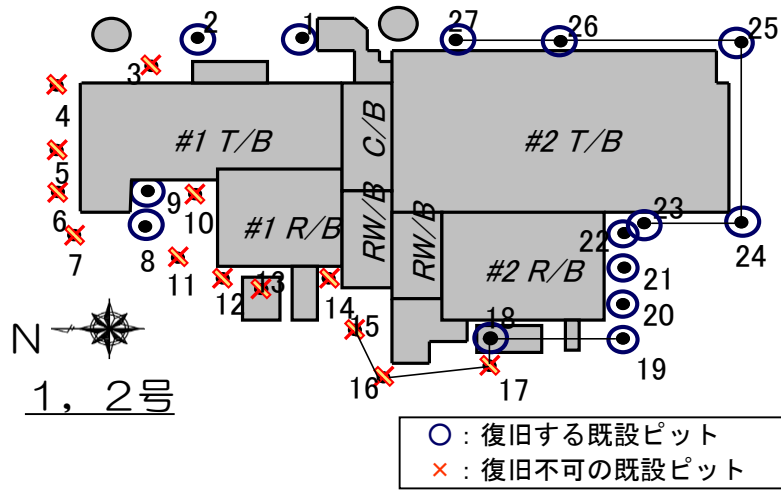
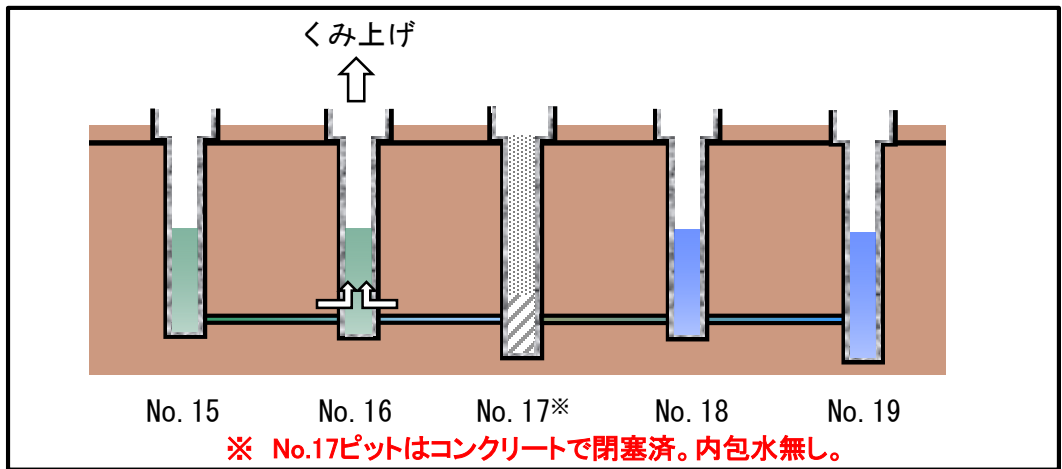


対策が完了していない件名のうち、液体の放射性物質濃度が高いことなどから、対策の優先順位が比較的高い主な件名の状況は以下の通り。

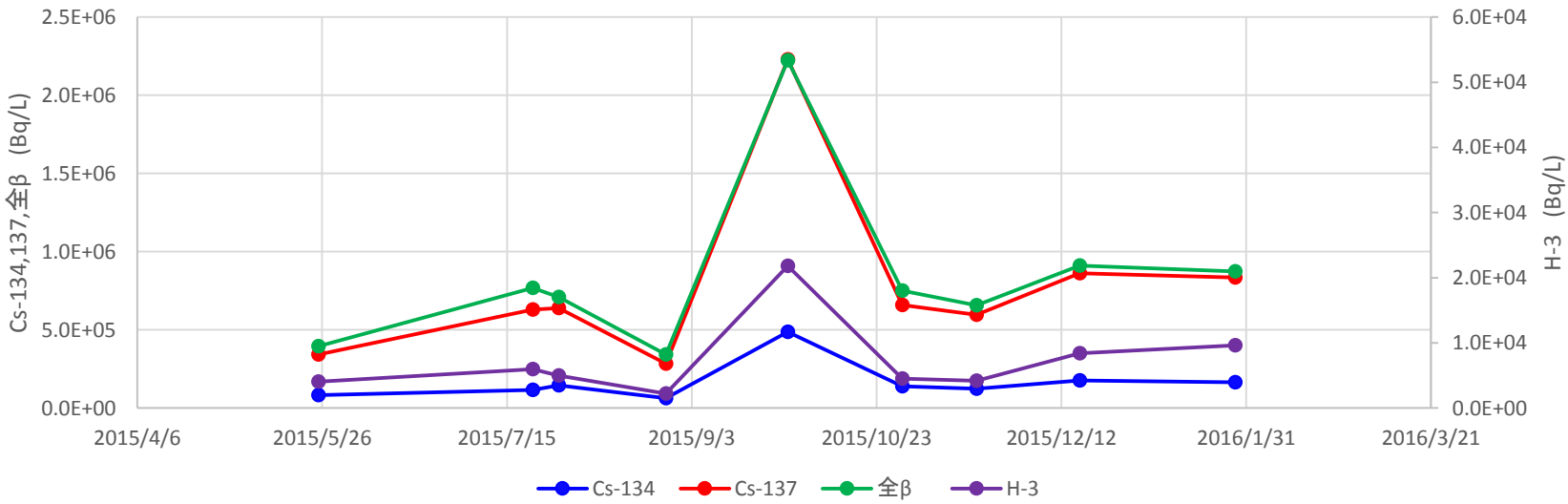
リスク番号	リスク存在箇所	リスク内容	対応状況	備考
110	サブドレンピットNo.16	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピット内から周辺地下水への流出</li> <li>豪雨時等の地下水位上昇による溢水</li> </ul>	サブドレンNo.16ピットの水を汲み上げし、放射能濃度等の監視を継続。近隣の1/2号排気筒を含め、周辺状況の対策の検討を行う。（No.19-2と関連）	参考1
19-2	1/2号排気筒ドレンサンピット	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨水流入により溢水</li> <li>ピット劣化・損傷により地中に漏出</li> </ul>	周辺3Dスキャンを実施し、得られた情報を活用し、具体的な対策を検討中。	
102※	廃棄物処理建屋間連絡ダクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>津波による建屋滞留水増加により溢水</li> <li>トレンチ壁の劣化等により地中に漏出</li> </ul>	当該ダクトへの流入状況について調査するため、ダクト内の滞留水移送及び水位・水質監視を実施中	参考2

※2015.4時点での放射性物質濃度は比較的低かったが、2015.12の調査において放射性物質濃度が上昇していることが確認された為、優先的に対策の実施が必要

# 【参考1】(リスク総点検番号110)サブドレンNo.16ピットの対応状況について



- 月1回程度溜まり水の汲み上げを行うこととし、第9回目として1/27~1/28に約21m<sup>3</sup>の汲み上げを実施。
- 継続して監視を行う。
- 当該ピットは近傍に1/2号排気筒があり、これらを含めた周辺状況の調査結果等により、対策を検討する。



# 【参考2】(リスク総点検番号:102)トレンチ・ダクト内の滞り水の点検状況について

## 【廃棄物処理建屋間連絡ダクトに関する原因調査状況】

- ・地上の汚染水移送配管(PE管)は、異常なし。また、配管周辺及び補助建屋内のサーベイを実施し、異常なし。
- ・当該ダクトの西側で接続する集合ダクトについては、2014.12の閉塞時、集合ダクトに滞留水が無いことを確認。
- ・当該ダクトへの流入状況について調査するため、2016.1.19から1.21までダクト内の滞留水移送を実施(O.P.+7.0mまで水位低下)し、水位・水質を監視したが、変化なし。さらに調査を継続し、2016.2.2から2.6までダクト内の滞留水移送を実施(O.P.+5.7mまで水位低下)し、水位・水質を監視したが、変化なし。
- ・今後の進め方について、検討中。
- ・また、ダクト内の水位は、ダクト周辺のサブドレン水位より低いため、ダクト内の滞留水が外部に流出することはないものと推定。

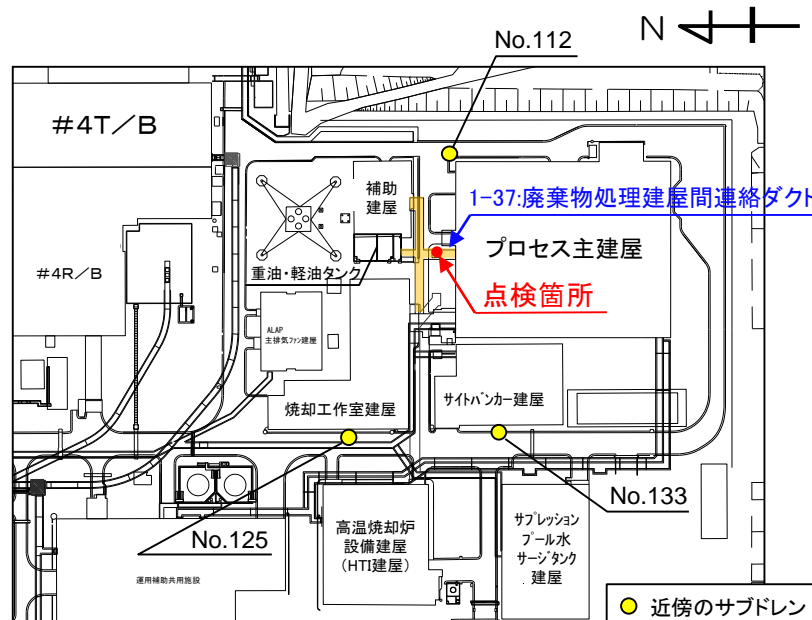
廃棄物処理建屋間連絡ダクト溜り水分析結果一覧表

調査実施年度	核種分析結果(Bq/L)					溜り水の区分※1	水位 O.P. (m)	溜り水量 (m <sup>3</sup> )※2
	Cs-134	Cs-137	Cs計	全β	H-3			
2011年度 (2011.12)	1.5 × 10 <sup>2</sup>	1.7 × 10 <sup>2</sup>	3.2 × 10 <sup>2</sup>	データ無し	データ無し	C	+5.2	(150)
2012年度 (2012.12)	9.9 × 10 <sup>1</sup>	2.0 × 10 <sup>2</sup>	3.0 × 10 <sup>2</sup>	データ無し	データ無し	C	+6.9	(400)
2013年度 (2013.12)	ND	3.9 × 10 <sup>1</sup>	3.9 × 10 <sup>1</sup>	データ無し	データ無し	C	+6.75	(370)
2014年度 (2014.12)	2.7 × 10 <sup>1</sup>	9.4 × 10 <sup>1</sup>	1.2 × 10 <sup>2</sup>	1.2 × 10 <sup>2</sup>	3.1 × 10 <sup>2</sup>	C	+7.08	(420)
2015年度 (2015.12.3)	9.2 × 10 <sup>4</sup>	3.9 × 10 <sup>5</sup>	4.9 × 10 <sup>5</sup>	5.0 × 10 <sup>5</sup>	6.7 × 10 <sup>3</sup>	B	+7.52	498
2015年度 (2016.2.11)	6.0 × 10 <sup>4</sup>	2.7 × 10 <sup>5</sup>	3.3 × 10 <sup>5</sup>	4.1 × 10 <sup>5</sup>	6.9 × 10 <sup>3</sup>	B	+5.70	225

※1:溜り水の区分(Cs計濃度) A:10<sup>6</sup> Bq/Lレベル以上 B:10<sup>5</sup> Bq/Lレベル C:10<sup>4</sup> Bq/Lレベル以下  
 ※2:溜り水量:カッコ書きは概算水量

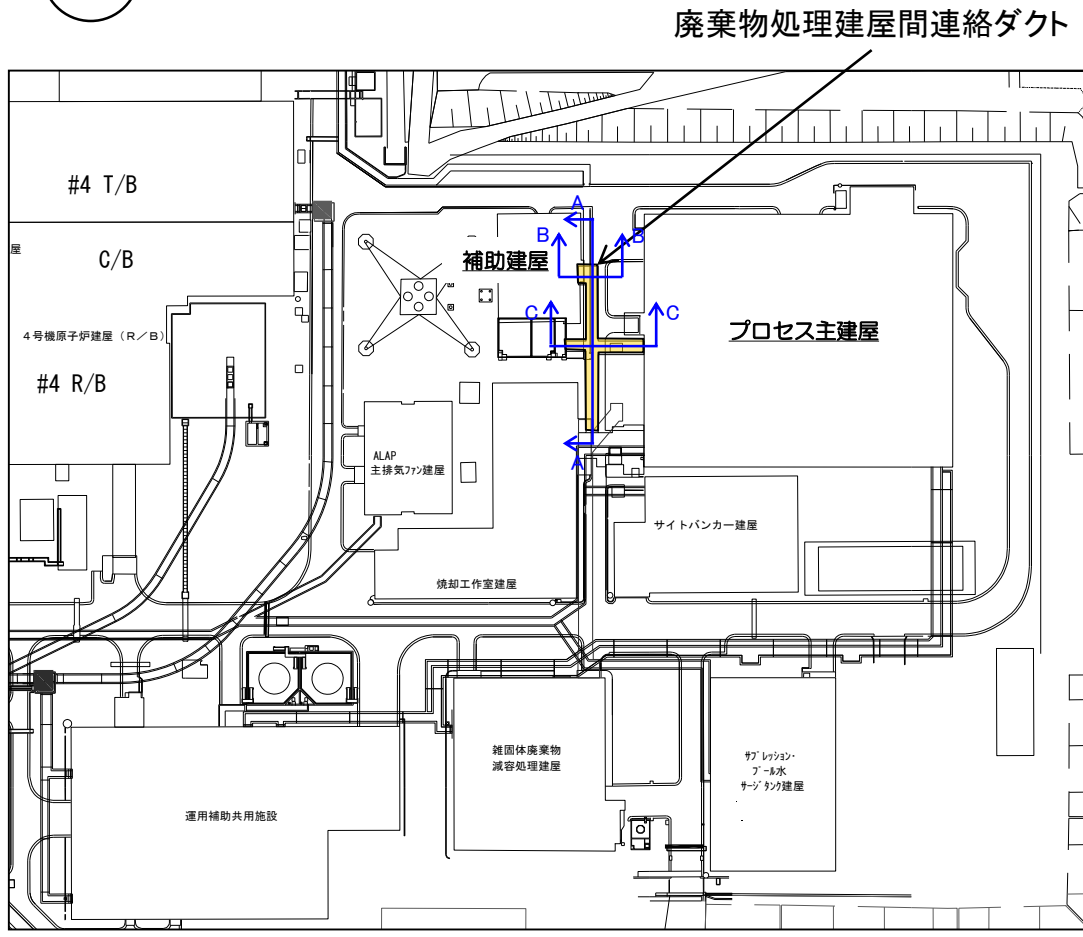
廃棄物処理建屋間連絡ダクト・近傍のサブドレン水位(2016.2.14、15)

測定箇所	水位
廃棄物処理建屋間連絡ダクト	T.P.+4.4m(O.P.+5.7m)
近傍のサブドレン	No.112 T.P.+6.8m(O.P.+8.1m)
	No.125 T.P.+6.4m(O.P.+7.7m)
	No.133 T.P.+7.0m(O.P.+8.3m)
プロセス主建屋(参考)	T.P.+3.5m(O.P.+4.8m)

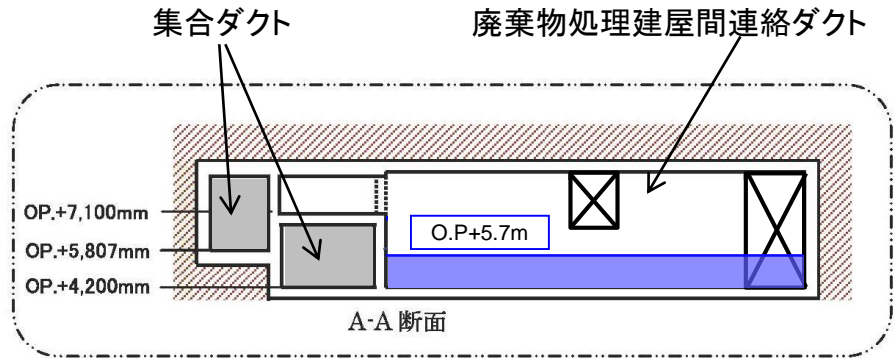


廃棄物処理建屋間連絡ダクト点検箇所位置図

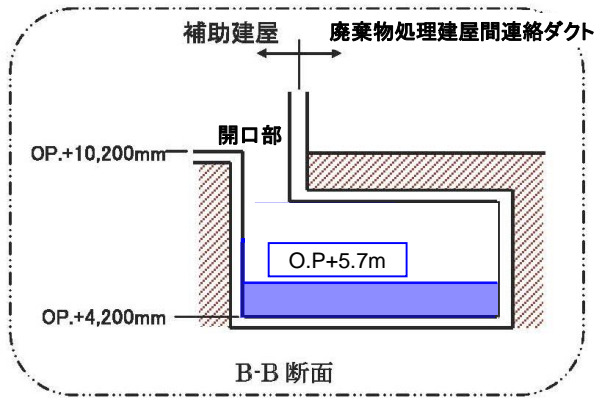
# 【参考2】(リスク総点検番号:102)廃棄物処理建屋間連絡ダクトの構造・滞留水水位



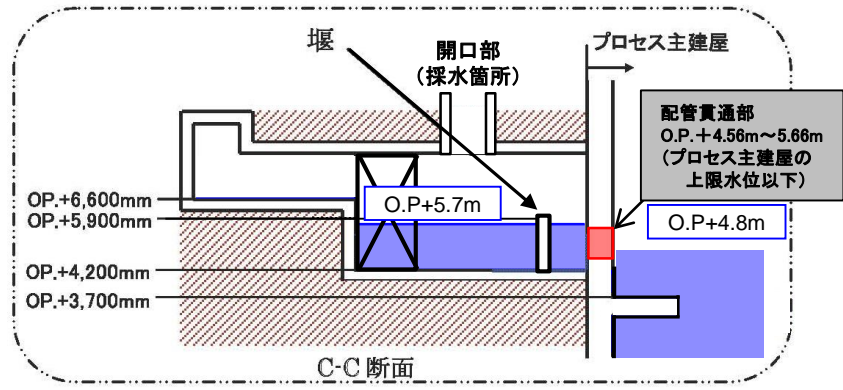
廃棄物処理建屋間連絡ダクト周辺概要平面図



A-A 断面



B-B 断面



C-C 断面